与謝野町公共施設白書

施設カテゴリー編

19

診療所

１９　診療所

その１　施設の概要

診療所は国民健康保険特別会計で運営しています国保診療所と、平成 25 年 4 月に国保診療所に併設されたリハビリ棟、石川学童保育を実施している医師住宅が一つの敷地内にあり、与謝野町の地域医療の拠点としての役割を果たしています。京都府立医科大学付属北部医療センター（旧与謝の海病院）を除くと、与謝野町では唯一の外来リハビリ診療を行っています。

【診療所施設一覧】

施設名	所在地	面積（㎡）		建築年	運営形態
		敷地	延床		
国保診療所	字石川685番地1	1,499.4㎡	331.8㎡	S62	直営
国保診療所リハビリ棟			146.0㎡	H25	直営
医師住宅			82.1㎡	S62	直営
	合計	1,499.4㎡	559.9㎡		

【施設位置図】

その２　施設の物理的状況

①　老朽化の状況

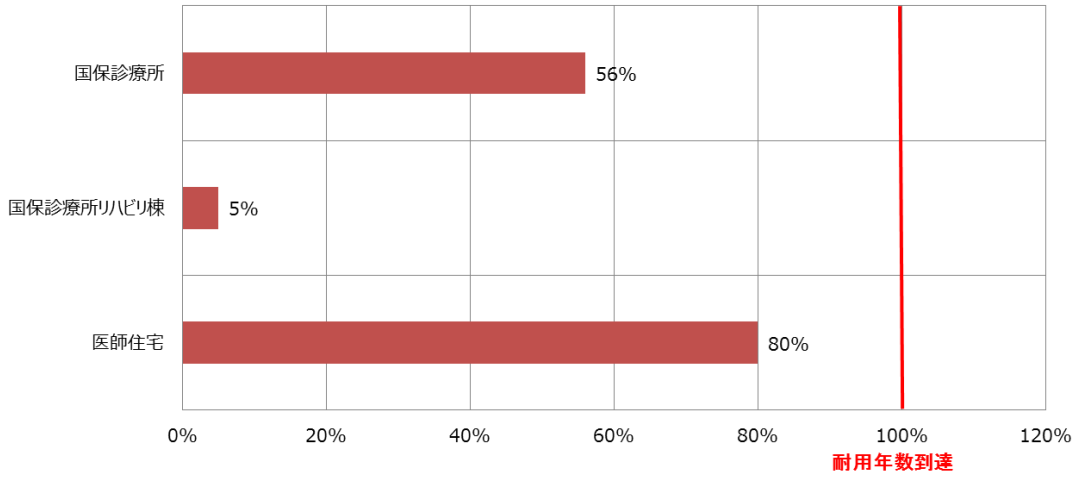
診療所と医師住宅は昭和 62 年に建設され、耐震補強はされていません。リハビリ棟は平成 25 年 3 月に完成したばかりであり、耐震性も備えた施設です。

【診療所施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
国保診療所	鉄筋コンクリート造1階建	Ｓ62	Ｈ49	56%	無
国保診療所リハビリ棟	鉄骨造1階建	Ｈ25	Ｈ65	5%	有
医師住宅	木造造1階建	Ｓ62	Ｈ34	80%	無

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%以上は耐用年数超過となります。

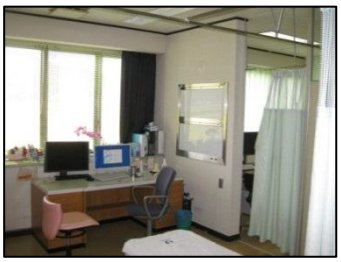
※耐用年数は鉄筋コンクリート造50年、鉄骨造40年、木造35年を想定しています。



②　設備の状況

【国保診療所】

レントゲン、エコー、胃カメラ、心電計などの設備があり、これらはすべてデジタル化されて、電子カルテと連携し、診療を行っています。



診療所の様子

【国保診療所リハビリ棟】

リハビリ棟の様子

リハビリ機器の一例①
【ローイング（上肢のリハビリ）】
肩甲骨周辺や肩周辺の機能を改善します。
肩こりや姿勢の改善等に効果があります。

リハビリ機器の一例②
【ヒップ（臀部・下肢のリハビリ）】
股関節を開閉する機能を改善します。
骨盤を安定させ立位や歩行が安定してきます。

リハビリ機器の一例③
【トーソ（体幹のリハビリ】
体を前後に曲げ伸ばしする機能を改善します。
腰痛の予防や姿勢の改善等に効果があります。

③　配置人員

診療所・リハビリ棟の配置人員は以下のとおりです。

【診療所職員配置体制（平成26年度）】

項目	正職員	臨時・嘱託職員	派遣・アルバイト	常時配置人数	備考
医師	-	1人	2人	1人	平成27年度からアルバイト医師なし
看護師	2人	3人	-	5人	平成27年度から嘱託看護師2人
理学療法士	2人	-	-	2人	平成27年度から3人体制
医療事務員	-	-	1人	1人	平成27年度から臨時職員
合計	4人	4人	3人	9人	

④　バリアフリー化の状況

医師住宅は、バリアフリー化にはなっていません。

施設名	多目的トイレ	スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	エレベーター	その他
国保診療所	-	○	○	○	△	-	
国保診療所リハビリ棟	○	○	○	-	△	-	外部インターフォン
医師住宅	-	-	-	-	-	-	

※「○…設置済」、「△…一部設置済」、「-…未設置」を表しています。

※国保診療所、国保診療所リハビリ棟の点字ブロックは、外部インターフォン付近のみ設置しています。

※国保診療所・国保診療所リハビリ棟のスロープは兼用となっています。

⑤　防災に関する状況

診療所施設は避難所指定されていません。指定警戒区域内に位置しています。

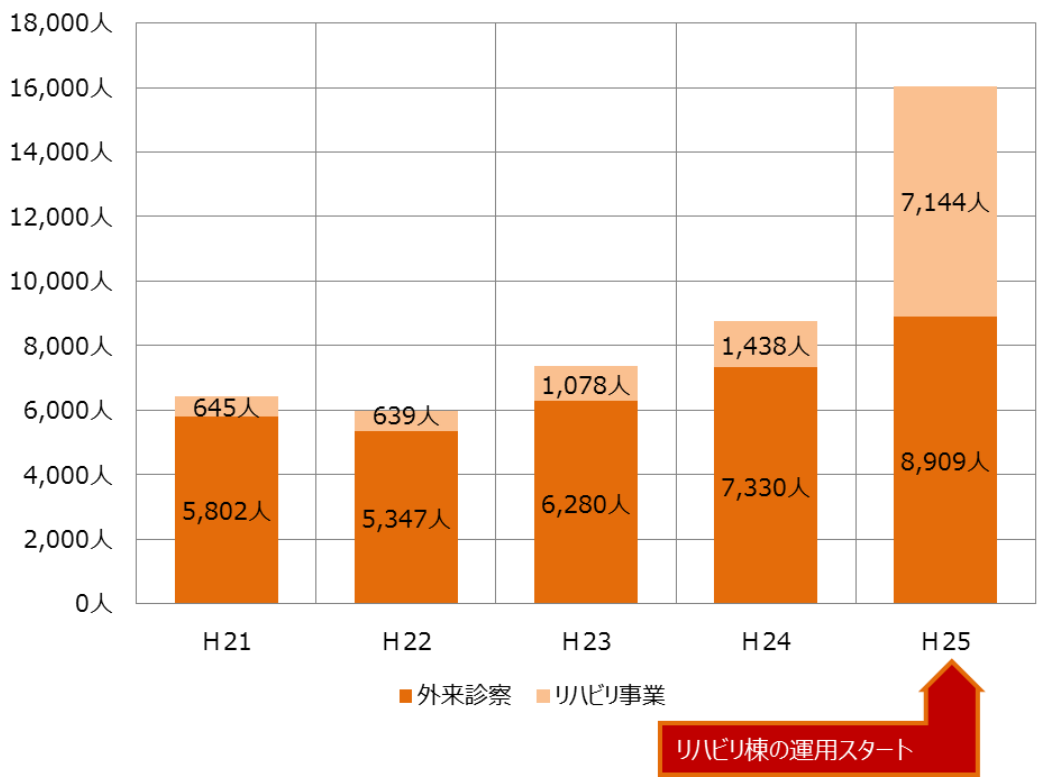
施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
国保診療所	-	-	0.5～3.0m未満	-	-
国保診療所リハビリ棟	-	-	0.5～3.0m未満	-	-
医師住宅	-	-	0.5～3.0m未満	-	-

その３　施設の利用状況

診療所では外来診療を行っています。平成25年３月からは院内薬局を院外薬局に変更しています。国保診療所では訪問リハビリ診療と外来リハビリを行っていますが、訪問リハビリについては平成 25 年 9 月末で休止しています（平成 27 年 4 月再開）。医師住宅では石川地区の学童保育施設として利用しています。

①　利用者数の状況

区　　分	利用者数				
	H21	H22	H23	H24	H25
外来診療	5,802人	5,347人	6,280人	7,330人	8,909人
リハビリ事業	645人	639人	1,078人	1,438人	7,144人
合計	6,447人	5,986人	7,358人	8,768人	16,053人



診療所の利用状況は増加傾向にあります。平成 25 年度からリハビリ棟が運用開始になり、その傾向が顕著になっています。

その４　コスト状況

①　管理・運営コスト

現在の診療所に係る管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

施設一体として管理コストがかかっているため、施設ごとに管理・運営コストを分けることができません。総額の約半分は、医師等の賃金が占めています。

【診療所施設 管理・運営コスト一覧】　(単位：千円)

項目	国保診療所	国保診療所 リハビリ棟	医師住宅	合計
賃金	34,685	0	0	34,685
光熱水費・燃料費	1,367	0	0	1,367
通信料・手数料	358	0	0	358
使用料・賃借料	124	0	0	124
消耗品費	1,327	0	0	1,327
備品購入費	8,377	0	0	8,377
賄・医薬材料費	4,645	0	0	4,645
修繕・維持補修費	247	0	0	247
委託料	7,372	0	0	7,372
指定管理料	0	0	0	0
その他	3,311	0	0	3,311
合計	61,813	0	0	61,813
職員人件費	15,942	-	-	15,942
			合計	77,755

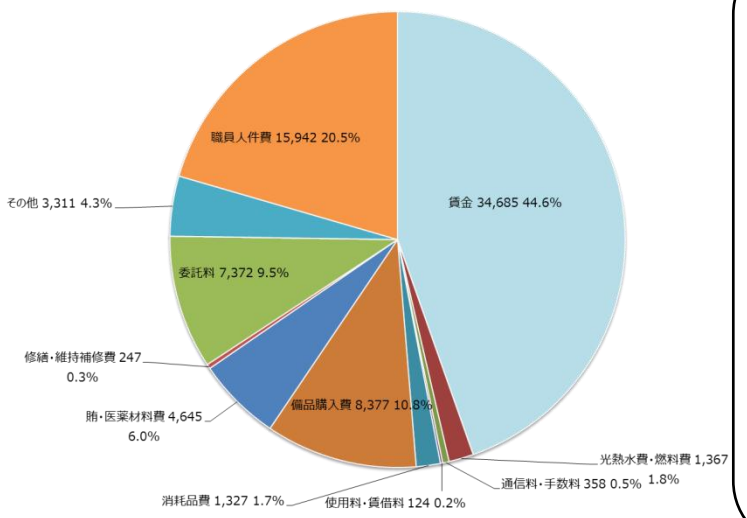
コストは国保診療所に包含されています。

コストは社会福祉協議会に委託している放課後児童健全育成事業に包含されています。

※平成25年度の実績額です。

※平成25年度から医薬品が院外処方になり、医薬材料費が減額になっています。

【国保診療所施設管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



診療所のコストで大きくなっているのは、やはり医師等の賃金です。医療サービスを提供するには人材の確保が最も重要であり、コストの面でもその割合が高くなります。同様に看護師、理学療法士は町職員ですので、その人件費も大きな割合を占めています。その他には医療器具などの備品購入費の割合が高くなっています。

【参考：診療所収入状況】

区　　分	料金収入（単位：千円）				
	H21	H22	H23	H24	H25
外来診療	67,847	60,719	67,921	82,725	60,347
リハビリ事業	226	224	337	503	4,783
合計	68,073	60,943	68,258	83,228	65,130

外来診療の平成 24 年度から平成 25 年度の落ち込みは、院内処方から院外処方に切り替えたことによるものです。このため薬剤収入は減少しましたが、利用者数の増に応じて診療報酬は増えていると考えられます。

② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年数到達年に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆耐用年数経過している建物は５年以内に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆建替える必要性がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数を既に経過している場合は５年以内に解体）

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・４０万円/㎡（解体費用も含む：医療施設）

※医師住宅はその他施設の３６万円/㎡

○解体コスト・・・3 万円/㎡

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出しコストは以下のとおりです。

【診療所施設整備等コスト一覧】　(単位：千円)

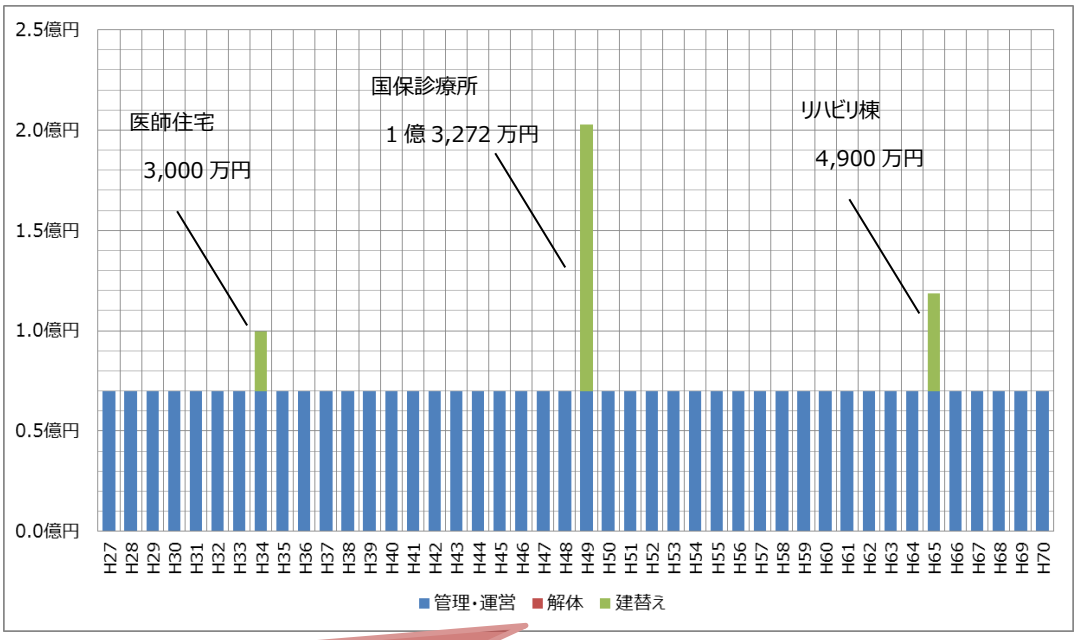
施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト（解体コスト）	実施年度	コスト
国保診療所	S62	50年	66,066	H49	132,720	参考	9,954
国保診療所リハビリ棟	H25	40年	38,259	H65	48,624	参考	3,647
医師住宅	S62	35年	12,534	H34	29,542	参考	2,462
				合計	210,886	合計	16,063

※解体コストは参考です。

※医療機器の整備は考慮していません。

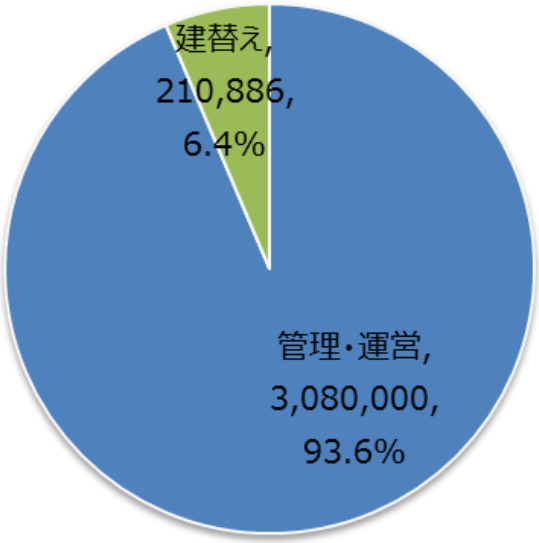
管理・運営コスト（平成 25 年度実績をベースに横置き）を含めた将来コストの推移は以下の通りです。

【診療所将来コスト推移表】



コスト総額約 32.9 億円（整備 2.1 億円、解体 0 億円、管理・運営 30.8 億円）

【国保診療所施設将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その５　まとめ

1　現状・課題

●利用状況

国保診療所、リハビリ棟共に年々利用者数は増加しています。特に、リハビリ棟の増設により外来リハビリ診療の利用者数・料金収入が大幅に増加しています。他方、国保診療所は、利用者数は増加していますが、料金収入は増加していません。これは、平成 25 年 3 月に、院内処方から院外処方に変更となったことが影響しています。

●建物状況

国保診療所・リハビリ棟は、現時点では現在の用途のまま活用することになりますが、国保診療所の耐震性について、耐震診断を行うなど、安全性への配慮を行わなければなりません。

●コスト状況

施設全体の管理・運営コストは約 7,700 万円であるのに対して、施設全体の利用者収入は約 6,500 万円となっています。

今後、耐用年数到達時に同規模で更新した場合、整備費が約 1.9 億円必要となる見込みです。

●現状のまとめと今後の展望

平成 25 年度のリハビリ棟増設により外来リハビリ診療に注力したため、それまで行っていた訪問リハビリ診療を休止していましたが、職員の体制を整え、平成 27 年度から訪問リハビリ診療を再開することとしています。それにより、外来・訪問リハビリを組み合わせた、より充実したサービスを提供することが可能となります。このように、国保診療所は地域医療の拠点となる重要な施設ですので、より充実を図っていきながら、より多くの方々にご利用いただくことで安定運用を目指していくことになります。

また、医師住宅については、石川地区の学童保育を別の場所へ移転予定のため、施設利用がない状態となった後の利活用を現在検討中です。